

令和3年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：岐阜女子大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

社会、特に子どもを取り巻く環境が多様化し、幼稚園や認定こども園で幼児教育に携わる教員にもこうした状況に対応する資質・能力の向上が求められる。とりわけ、幼児教育の現場で中心的な役割を担う中堅層（ミドルリーダー）の果たすべき役割は大きい。しかし、中堅層の多くは二種免許状所有者（平成19年度の岐阜県の幼稚園教諭免許状授与件数の77.9%は二種免許状である。）であり、その専門性を向上させるためには教育委員会の研修や10年ごとの教員免許状更新講習で学ぶ教育の最新事情とともに、理論と実践を往還する内容が必要といえる。本免許法認定講習では、二種免許状保有者の専門性の向上を図り、上進を推進する。

(2) 事業概要

幼稚園教諭二種免許状から一種免許状に上進する認定講習を開設。

①対象

- ・実務経験年数8年以上を経過するこれからの幼稚園教育を担う中堅層教員を対象に最短で2年間の講習の履修で、二種から一種への上進を可能にする講習の開設（12年以上の経験者は1年で取得可能な講座を開設）。
- ・本学が所在する岐阜県並びにサテライト校のある沖縄県の幼稚園教諭を主な募集対象とした。

②認定講習の実施形態

- ・講座の形態として、対面授業を基本とし、e-Learningを組み合わせた講習（ハイブリッド型講習）とした。
- ・講座の開講日程を、土・日曜日に設定し、幼稚園教諭であっても受講しやすいように考慮した。
- ・経験年数12年経過の教諭において、1年で幼稚園教諭二種免許状から一種への上進が可能とした。

③認定講習の実施状況

- ・令和3年度の認定講習の開講設定科目及び日程・受講料は、表1のとおりである。

表1. 令和3年度認定講習開講設定科目及び日程・受講料

通番	科目名 (受講料)	日程	通番	科目名 (受講料)	日程
1	幼児理解 (6,000円)	6/26(土)・6/27(日)	6	保育内容(表現) (6,000円)	9/19(日)・9/26(日)・ 10/10(日)
2	教師論 (6,000円)	7/3(土)・7/22(木・祝)・ 7/31(土)	7	教育原理 (6,000円)	10/16(土)・10/24(日)・ 11/20(土)
3	保育内容(言葉) (6,000円)	7/10(土)・7/17(土)・ 8/7(土)	8	幼児と言葉 (6,000円)	10/17(日)・10/24(日)・ 11/21(日)

4	教育の方法・技術 (6,000円)	7/11(日)・7/18(日)・ 9/11(土)	9	遊びと文化Ⅱ (6,000円)	11/27(土)・12/4(土)・ 12/18(土)
5	教育経営学 (6,000円)	9/4(土)・9/18(土)・ 10/9(土)	10	教育課程論 (6,000円)	11/28(日)・12/5(日)・ 12/19(日)

④評価

- ・講習の内容が幼児教育従事者の資質向上に貢献しているかを評価検討する有識者会議を設置した（評価検討委員会）。
- ・評価検討委員会は、2回（第1回：令和3年10月29日、第2回：令和4年2月18日）実施した。

(3) 成果（事業の実績の説明）

- ①本事業を活用して開設した講習・受講者数・単位取得者数等について
- ・令和3年度の講座開講状況（受講者数等）は、表2のとおりである。

表2. 令和3年度認定講習講座開講状況

	講座名	日 程	募集 人数 (人)	申込 人数 (人)	受講者数 《単位取得 者数》 (人)	勤務 先等 (人)	年齢 構成 (人)
1	幼児理解	6/26(土)・6/27(日)	30	0	0		
2	教師論	7/3(土)・7/22(木・祝)・ 7/31(土)	30	8	8《8》 (岐5・沖2)	公3・私5 幼6・こ2	30代3 40代4 50代1
3	保育内容（言葉）	7/10(土)・7/17(土)・ 8/7(土)	30	11	11《11》 (岐9・沖2)	公3・私8 幼8・こ3	30代3 40代5 50代3
4	教育の方法・技術	7/11(日)・7/18(日)・ 9/11(土)	30	10	10《10》 (岐6・沖4)	公4・私6 幼6・こ4	30代3 40代5 50代2
5	教育経営学	9/4(土)・9/18(土)・ 10/9(土)	30	7	7《7》 (岐4・沖3)	公4・私3 幼4・こ3	30代1 40代4 50代2
6	保育内容（表現）	9/19(日)・9/26(日)・ 10/10(日)	30	7	6《6》 (岐3・沖3)	公3・私3 幼3・こ3	30代1 40代4 50代1
7	教育原理	10/16(土)・10/24(日)・ 11/20(土)	30	2	1《1》 (岐1・沖0)	公1・私0 幼0・こ1	40代1
8	幼児と言葉	10/17(日)・10/24(日)・ 11/21(日)	30	13	12《12》 (岐9・沖3)	公4・私8 幼8・こ4	30代3 40代6 50代3
9	遊びと文化Ⅱ	11/27(土)・12/4(土)・ 12/18(土)	30	1	0		
10	教育課程論	11/28(日)・12/5(日)・	30	6	5《5》	公3・私2	40代4

		12/19 (日)			(岐2・沖3)	幼2・こ3	50代1
--	--	-----------	--	--	---------	-------	------

※勤務先等 公=公立、私=私立 幼=幼稚園、こ=認定こども園を表し、横の数値は、人数を表す

※受講者数 岐=岐阜、沖=沖縄の会場を表す

※年齢 年代の数値は、人数を表す

- ・各講座定員30名を設定していたが、最大受講者数は13名であり、開講予定の10講座平均受講者数は6名であった（実開講講座の平均受講者数は約8名弱）。
- ・岐阜の会場と沖縄の会場の2か所を設定したが、沖縄の会場での受講が岐阜に比べて少ない状態であった。
- ・実施前の想定においても、沖縄会場の定員数を岐阜の定員数より少なくしていたため、想定どおりの受講状況であった。
- ・全体的に申込者数が少なかったこととして、幼稚園教諭にとって免許状上進へのインセンティブが働いていないことが要因として考えられる。
- ・「幼児理解」の申込みが無かったことは、申込期間が新型コロナウイルス感染拡大により、まん延防止等重点措置が岐阜県において適用されていたことが要因と考えられる。
- ・「遊びと文化Ⅰ」の申込みが少なかったことは、本講座の直前開講の講座「幼児と言葉」と教育職員免許法施行規則に定める科目区分等が同一であったこと、受講生のほとんどが経験年数12年以上の者であったことで、「遊びと文化Ⅰ」か「幼児と言葉」のどちらかの受講でよかったため、日程が後であった「遊びと文化Ⅰ」は、申込みが少なかったと考えられる。
- ・講座の形態は表3のとおりである。

表3. 令和3年度認定講習講座の形態

通番	科目名	講座形態	通番	科目名	講座形態
1	幼児理解	対面授業	6	保育内容（表現）	対面+e-Learning 併用
2	教師論	対面+e-Learning 併用	7	教育原理	対面授業
3	保育内容（言葉）	対面授業	8	幼児と言葉	対面+e-Learning 併用
4	教育の方法・技術	対面+e-Learning 併用	9	遊びと文化Ⅱ	対面授業
5	教育経営学	対面+e-Learning 併用	10	教育課程論	対面+e-Learning 併用

②本事業を活用して幼稚園教諭一種免許状に上進した教員数

- ・本講座を受講した教諭の内、5名の受講生が幼稚園教諭一種免許状に上進（R4.2/28時点）。

(4) 今後の課題・展望

- ・一種免許への上進に教員のインセンティブが働かないことが大きな課題である。
- ・この現状を打開するために来年度は、幼稚園教諭二種免許状保有者が、自身の資質・能力を向上させたいと思えるよう、免許状の上進のみにとどまらず、新たな付加価値を与えるような仕組みとする。
- ・教員の実務経験12年以上の教諭が、1年間で受講できるように、開設科目を設定し、講座をパッケージ化する。
- ・10単位で受講料を30,000円と安価に設定し、多くの教員がいつでも、どこでも、誰とでも一緒に受講できるようにする。

- ・幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアとして「幼児教育コーディネータ」を創設し、その養成カリキュラムを開発・試行する。
- ・「幼児教育コーディネータ」は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的として実施する。
- ・本学が実施する履修証明制度により、「幼児教育コーディネータ養成コース」を設定し、10科目の講座を受講した受講生には、「幼児教育コーディネータ養成コース」の履修証明書を交付する。
- ・多くの教員がいつでも、どこでも、誰とでも一緒に受講できるよう、受講形態として、集合して対面での講座実施ではなく、受講生が任意に受講場所を選択し、日々の勤務と学びを両立できる講座実施体制を築く（例えば、対面での授業も、オンラインを活用して実施する等）。